

聖土曜日 復活徹夜祭

2011.4.23

ロマ 6・3-11

マタイ 28・1-10

今晚、私たちは光の祭儀をもって、この復活徹夜祭の典礼儀式を始めました。復活徹夜祭は、私たちの信仰の中心である、主イエス・キリストの十字架の死と、その死の闇を切り開いて復活された主イエス・キリストによってもたらされた、私たちすべての者のための、新たな過ぎ越し、神の決定的かつ絶対的な救いのみわざを大いなる喜びのうちに祝う、古くからの教会の典礼儀式です。

ローソクに灯りを灯し、手に手に灯されたローソクの光を持って大勢の人々が祈りをささげる光景は、大きな災害が繰り返されるたびに、どこでも目にするものとなっています。今晚、私たちはその人々の祈りと一つになって、この復活徹夜祭の光の祭儀に与りました。闇に閉ざされた私たち全ての者の祈りの中心に、十字架の死の闇を切り開いて復活されたイエス・キリストが、闇の中で祈る私たち全ての者にもたらしてくださった復活の希望の光が輝いているのです。主イエス・キリストの復活の光を象徴する、復活の大きなローソクから私たちが掲げ持つそれぞれのローソクに分け与えられた光は、イエス・キリストの復活によって闇の中にある私たちのうちもたらされた、新たないのちへの希望の光の象徴です。

私たちが手にしたこの希望の光が、どのようにして、私たちのうちに灯されたのかということ、カトリック信者としての私たちは決して忘れてはなりません。私たちのうちに灯されたこの希望の光は、人間である私たちが、自分たちの過去の経験の中から拾い集めた火種によって灯される光ではありません。「なるようにしかならない」という居直りと、「なるようになる」という希望的観測をもってしては、決して切り開くことの出来ない、闇に閉ざされた将来に、今この国の私たちは向き合われているのです。今回の大災害によって、私たちが向き合うことを余儀なくされた、私たちの将来を覆う黒々と広がる、私たちの人間としての存在を脅かす闇の恐怖は、人間である私たちの原体験であるはずで、私たちがこの闇の恐怖から逃れるために、それを忘れるために、営々と努力して、文明の光を作り出してきかともいえます。人間である私たちのそのような営みをあざ笑うかのように、私たちが作り上げた文明の光のネットワークを寸断するかのよう、私たちの将来を脅かして止まない、黒々とした闇は、今、私たちにその素顔を現しているのです。

私たちが信じる主イエス・キリストの復活と、それを象徴する私たちが手に

したこの復活徹夜祭の光は、そのような闇を前にたじろぐ私たち全ての者に、神のみがもたらすことの出来る希望の光です。そしてそれは、神自らが、十字架の死とその死からの復活をもって、私たちの全ての闇の壁を突き崩すことによってもたらしてくださった天からの光です。

今晚、この復活徹夜祭のミサで、今年も新しい受洗者の方々を迎えて、洗礼の秘跡が施されます。洗礼の秘跡の恵みに与るということは、主イエス・キリストの十字架の死と復活において示されている、主の過ぎ越しに与るということです。それゆえに洗礼を受けるのに最もふさわしい時は、教会が主の過ぎ越しを祝うこの復活徹夜祭なのです。旧約の神の民が毎年この季節に過ぎ越しの祭りを祝って、出エジプトの、彼らにとっての神の決定的、絶対的な救いのみわざを記念し祝ってきたように、教会は、主イエス・キリストの十字架の死と復活を通して、全ての人に開かれた過ぎ越しの祭りを祝います。キリスト教の信仰を受け入れてキリスト者となるということは、神がイエス・キリストの十字架の死と復活を通して、全ての人に開いてくださった、この死から新たないのちへの過ぎ越しを、自分の人生の新たな土台として受け入れるということです。

洗礼を受けることによって、私たちが新たに歩み始める、信仰者としての日々は、主イエス・キリストの十字架の死と復活の、過ぎ越しの神秘によって灯された希望の光を頼りに歩む日々です。私たちの人生の日々が、たとえどのように長く苦しい闇に覆われても、洗礼によって与えられたこの希望の光が、私たちのうちに消えてしまうようなことがなければ、私たちはこの世の人生のあらゆる闇に打ち勝って、永遠のいのちの光の世界に向っての、過ぎ越しの旅を歩み続けること出来るのです。それゆえに、洗礼によって始まる私たちのカトリック信者としての新たな日々は、洗礼によって与えられた、新たないのちの希望の光に導かれた、私たちを包む闇の力との戦いと日々とならなければなりません。洗礼によって与えられた、ひと時の喜びの興奮によって、私たちを包む闇の力を侮ってはなりません。私たちを包む闇の力は、神を信じる者とされた私たちの力よりもはるかに強いのです。けれども洗礼によって神の子とされた私たちは、私たちを包む闇の力に怯え続けなければならない、人間の宿命から解放されているのです。イエス・キリストの十字架の死と、その死からの復活によって新たにされた過ぎ越しの神秘に与るということはそのようなことです。私たちの人生の行く手が、人間である私たちには逃れるすべのない死の闇に覆われたものであるとしても、イエス・キリストの十字架の死と、その死からの復活によって示された、神が与えることの出来る新たないのちの力は、その闇の壁を打ち崩す力です。洗礼が私たちに与えるのは、単に、私たちを覆う

闇の道を歩み通すための希望の光ではありません。洗礼によって神が私たちの中に注ぎ入れられてくださるのは、私たちを覆う全ての闇を打ち払うに足りる力を秘めた、いのちそのもの光なのです。私たちを包む闇の力に屈して、神を信じることが出来ないでいる私たち全ての者のために、神はあらゆる闇の力に打ち勝つその全能の力の証として、十字架につけられて死んで墓に葬られた、人となられた神の子イエス・キリストを、闇の力から私たちを解放する私たちの救い主として、全ての死者に先立って、死者の中から復活させてくださったのです。ここに、洗礼によって、神が私たちに与えてくださるいのちに満ちた光の源があります。洗礼によって新たに歩み始める私たちのカトリック信者としての歩みは、絶えず、この光の源に立ち帰ることによって、その都度私たちの身近に迫って私たちを脅かす、闇の力から解放された歩みとなるのです。その光の道を歩み通す恵みを、今日洗礼の秘跡の恵みに与る兄弟たちの上に、そしてここに集う私たち一人ひとりの上に願って、私たちを照らす光の源である、復活の主を喜び迎えたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高